

うしお

第 134号

昭和42年8月

目 次

昭和41年度のり養殖概況	養 殖 部	1
漁場観測速報(6・7月分)	〃	8
7月の漁海況概要	漁 業 部	12
昭和42年の鹿児島湾附近に おけるパシヨウカジキ漁況 (流網)の予報	〃	14
定置観測(7月分)	養 殖 部	16
奄 美 短 信	大 島 分 場	17
業 務 概 況	編 集 部	18

鹿児島市城南町20番12号

鹿児島県水産試験場

昭和41年度のり養殖概況

養 殖 部

1、施 設 数

第1表に示すように県下11漁協、295経営体で、網ヒビ6,655枚により養殖した。これは前年度の16漁協管内、333経営体に比して減っている。各漁協別に経営体数の変動をみると、谷山が18、長島が25経営体の減少、加治木9、牛根17、岩本21、その他垂水、川内などが増えた。

また網ヒビ数は谷山が872枚、長島30枚、東町79枚の減に対し、出水が1,467枚、垂水62枚、加治木105枚、川内14枚の増となつたことにより、昨年の6,364枚よりも191枚増えた。

網ヒビ数を採苗別にみると、天然採苗ヒビは2,513枚で、網ヒビ総数の38%で、出水を中心に、東町、長島などで採苗されている。昨年の網ヒビ総数は981枚で、これは一昨年の約半数に減じたものが、本年は更に大巾に増えている。

人工採苗は昨年までは年々増加の傾向を示して5,383枚になつていたが、本年は4,042枚で昨年より1,341枚減少している。地元人工採苗数も昨年の2,653枚から700枚に減少している。

採苗ヒビの供給は、福岡、佐賀、熊本に依存している状態であるが、垂水、出水など県内での採苗移殖も普及している。

2、生 産 量

第2表に地区別生産状況を示した。

県全体の生産枚数は792万枚、金額で9,281万円で、近年における良作の39年の472万枚を大きく引き離して最高の年となつた。

しかし、網ヒビ1枚当りの平均生産枚数は、昭和37年の1,482枚に次ぐ1,209枚、平均単価では昭和38年の13.46円に次ぐ11.71円であつた。

また、昭和36~40年までの5ヶ年間のヒビ1枚当りの平均枚数878枚よりも331枚増え、良作の年となつた。

3、気 象 ・ 海 況

○ 水 温

漁期中の水温(第1図)をみると、9月下旬から10月初めにかけて約1℃低かつたが、主なる変動は11月下旬から1月末までの生育最盛期に平年よりも低めが続いていることである。

その後2月中旬に1℃近く高目を示した他は殆んど平年と変わらない。

○ 気 温 (鹿児島:気象台資料から)

9月上旬は平年よりも約2℃高く、中、下旬はやゝ低め、10月上旬にわずかに上昇したあと、中、下旬には再び低くなつているが、9~10月までは平均して平年よりやゝ低めとなつている。

11月以降3月までは1~2℃余りの巾で平年気温を上下している。

○ 降雨量（鹿児島）：気象台資料から

第2図のように9月中旬は18㎜で平年の約2倍、9月下旬は平年並み、10月上旬は170㎜で平年の約3倍となっている。その後、10~3月中旬までは平年よりも低めになっている。3月下旬は平年の約2倍であった。盛漁期中を通じては、平年よりも少な目であった。

○ 水平面日射量（鹿児島）：気象台資料から

9月から12月までは平年よりもはるかに少なく、1月から3月までは概して平年よりも少なくなっている。

1月上旬、2月中旬、3月中旬に平年値よりも多くなつた他は漁期を通じて平年よりも日射量が少なかつた。（第3図）

第1表 地区別、採苗別ヒビ数

地区別	経営体数	網 ヒ ビ (枚)				計	移植ヒビの採苗地
		天然採苗		人工採苗			
		地元	移植	地元	移植		
出水	160	2,276		340	2,646	5,262	福岡、佐賀、熊本
東町	4	91				91	
長島	5	20				20	
川内	22				144	144	佐賀、熊本
岩本	1			55	7	62	垂水
喜入	16	3			27	30	垂水
谷山	29				358	358	田ノ浦
加治木	16		123			123	
牛根	18				160	160	垂水、出水
垂水	21			220		220	
串木野	3			85		85	
計	295	2,390	123	700	3,442	6,655	

※ 漁協からの報告資料によつた。

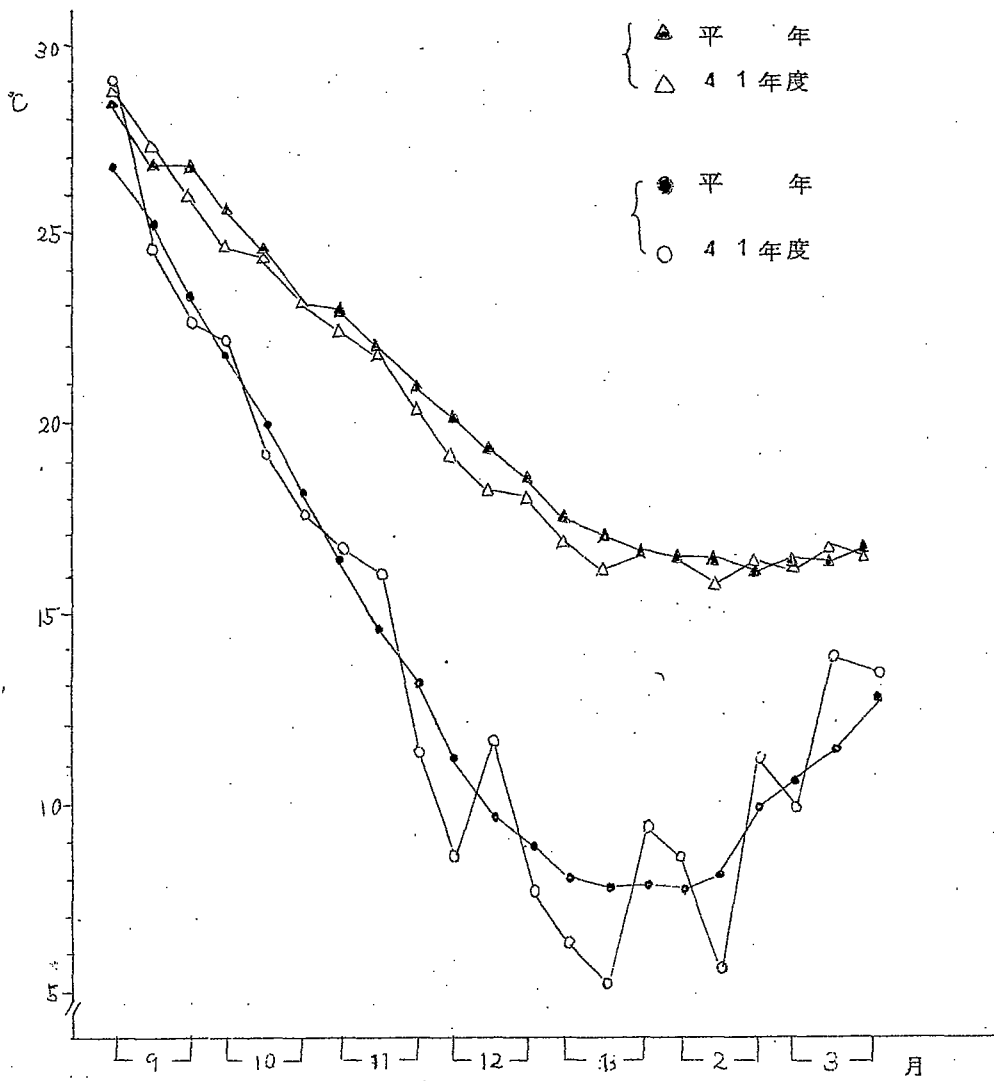
第2表 地区別生産量

地区別	生産量 (千枚)				ヒビ1枚当 り生産量
	くろのり	まぜのり	あおのり	計	
出水	6.568.4	317.7	103.5	6.989.6	1.328.3
東町	8.0	3.0	0.4	11.0	120.8
長島	2.0	1.0	2.0	5.0	250.0
川内	163.6			163.6	1.136.1
岩本	0.1			0.1	2.4
喜入	20.0			20.0	666.6
谷山	213.4	108.7	9.5	331.6	926.3
加治木	127.0			127.0	1.035.0
牛根	6.5	10.0		16.5	103.1
垂水	245.5			245.5	1.116.0
串木野	14.2		1.1	15.3	180.0
計	7.368.8	440.4	116.5	7.925.7	1.209.1

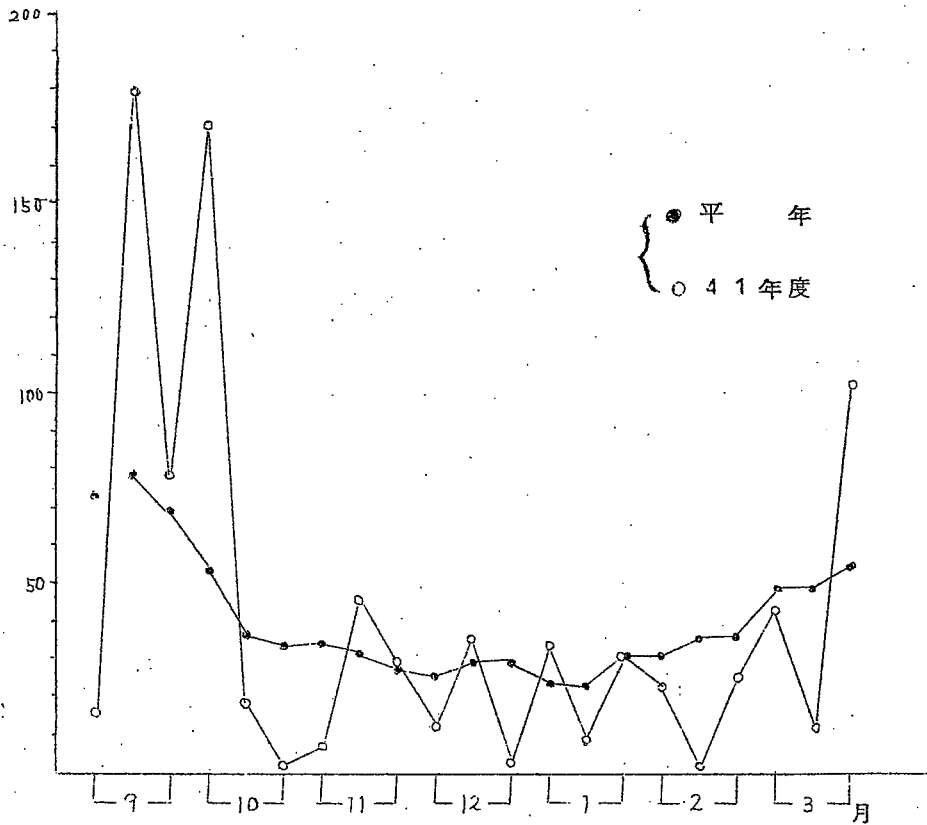
※ 漁協からの報告資料によつた。

第3表 鹿児島県の年度別生産状況

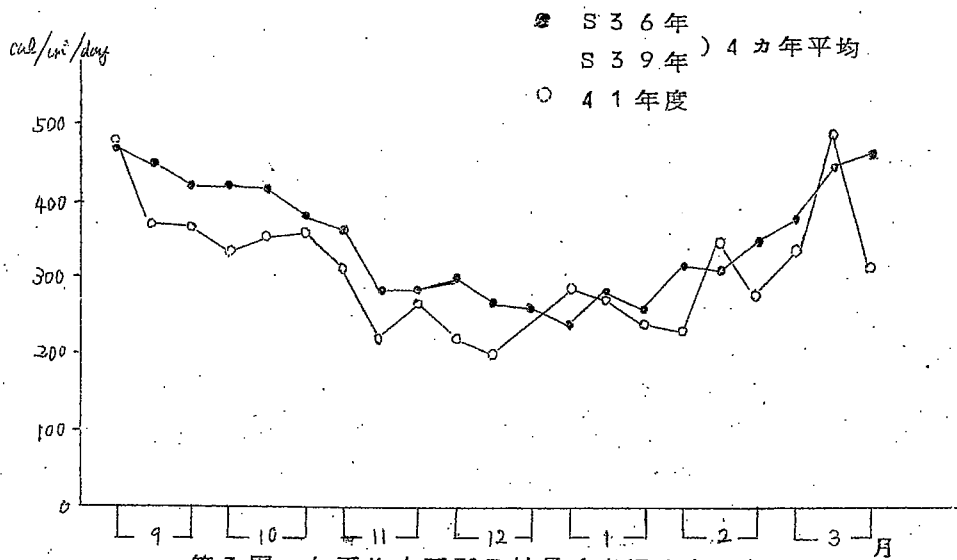
年度	経営体数	養殖ヒビ数	生産枚数 (千枚)	ヒビ1枚平 均生産枚数	のり平均単 価 (円)	備 考
30	116		4432.7			農 林 統 計
31	95		1230.5			〃
32	190		1378.1	382		〃
33	197		2199.2	733		〃
34	230		934.8	467		〃
35	256	3079	2291.3	725		〃
36	199	2311	3039.8	1062	5.73	水 試 調 査
37	268	2342	4080.9	1482	7.32	〃
38	266	3446	3003.0	801	13.46	〃
39	330	6414	4725.0	736	9.20	農林(一部水試)統計
40	333	6364	3487.4	548	10.98	水 試 調 査
41	295 (294)	6655 (6665)	7925.7 (9593.0)	1209 (1439)	11.71	水 試 調 査 (農 林 統 計)



第1图 旬平均水温・气温



第2圖 旬平均降水量(鹿兒島)气象台資料



第3圖 旬平均水平面日射量(鹿兒島)气象台資料

4、養殖概況

○ 採苗期

41年度は水温がほぼ平年並みに推移したことから、人工採苗は出水地区で10月11日～14日に、鹿児島湾地区は10月27日～30日に実施された。

芽付きは1潮後の調査で出水地区(11月1日)ではヒビ糸1cm当り21～300個体、平均84個体で濃密であつた。芽イタミが5～10%みられ、アオノリ類はヒビ糸3cm当り0～4個、平均0.5個で少なかつた。

鹿児島湾の主採苗漁場の垂水地区は10月29日採苗実施して、11月8日の調査によるとヒビ糸1cm当り6～50個体平均33個体で良好であつた。岩本漁場の試験採苗は10月30日に実施し11月16日の調査では70～300個体/cmと濃密な芽付きであつた。

一方天然採苗は、出水地区の野口漁場と、長島地区で10月下旬～11月中旬に実施された。

○ 生長期

出水地区は県外での人工採苗ヒビの移植が10月25日から始まり11月10日までに終了した。芽付きは良好で移植時にノリは肉眼視され、平均2～3mmに生長したヒビと、1cm内外のヒビとの2通りであつた。その後の生育は概して順調で11月下旬から摘採期に入つた。

一方、鹿児島湾では垂水漁場で採苗したヒビの湾内各地への移植が11月13日～14日に実施された。移植後の経過は牛根地区を除いて発芽不良がみられた。特に岩本漁場は12月中旬になつてもノリが肉眼視されず100%の被害、垂水漁場でも約50%、谷山漁場が約25%と不良ヒビがでた。その原因は湾内への外洋水勢力が強かつたため(黒潮流軸の北上接岸)と推察された。湾奥の牛根漁場では本年はじめての養殖であつたが、極めて順調な生長で12月下旬から摘採期に入つた。熊本県の天然採苗ヒビを移植した谷山漁場は11月下旬～12月上旬に搬入後、一部を除いて生長は順調で1月上旬から摘採がはじまつた。

○ 生産期

出水地区では11月下旬から摘採期に入り12月上旬には生産盛期となつた。病害もみられず、水温の低下も平年より早いいため生長が旺盛であつた。(12月1日、17時水温 9.4～11.5℃)

2月上旬まで早ダネの生産は終了となつたが、野口産の晩期天然採苗ヒビが2月から4月までに生産期となり、この2品種の組み合わせ養殖で豊作となつた。

長島地区は従来、移植ヒビに頼つていたが、本年は天然採苗をして比較的安定した生産をあげたようである。なお、ヒトエグサの生産も良好であつた。

川内地区は出水漁場同様、佐賀の早期採苗ヒビと、野口産天然採苗ヒビの移植によつて好調な生産を示した。

串木野地区は地元人工採苗によつているが、ヒビミドロの着生が著しく、

生産は不良であつた。

鹿児島湾では前述の岩本漁場が生産なく、垂水、喜入、谷山漁場ではやゝ良好な生産をあげた。牛根は1月に入つて浮流し養殖を開始したが、ノリの老化が著しく生産は伸びなかつた。

以上のように本年度は鹿児島湾の発芽不良があつたが、概して気象条件が順調であつたため、出水地区を主体に生産量は伸びた。その特徴としては、早生種と、脱生種の組み合わせによる生産増が目立つた。

冷凍のり網の実施は、水試の試験以外では出水地区で13枚を12月1日に入庫、1月中旬に出庫して3月上旬まで3回摘採し7000~10000枚の生産をあげ一応成功といえよう。

5、共 販 状 況

県漁連主催による本年度のノリ共販は12月13日から4月10日までの8回にわたつて行なわれた。総出荷量は約766万枚で総生産量の95%（農林統計の総生産量の80%）であつた。

地区別出荷量は8漁協から出荷され、出水が全体の91%を占め、その他の地区が1~3%となつている。

共販ごとの単価の変動は12月26日の第2回の13円台を最高に、その後6回までは11~12円台で、3月に入つても横ばい状態を示した。3月中旬の第7回になつて8円に、第8回には5円に下落はしたが、全漁期を通じて比較的安定した単価を示した。このことは当初、全国的な豊作を予測していたのが意外に不作になつたために値段に大きな変動がなかつたためと思われる。

第4表 時期別共販状況

(県漁連資料から)

共販(回)	共販月日	出荷量(千枚)	平均単価(円)
1	12,13	704.6	11.90
2	12,26	899.9	13.02
3	1,16	1228.6	12.24
4	2,1	1707.1	11.41
5	2,16	1557.4	11.12
6	3,1	991.1	12.13
7	3,16	511.7	8.50
8	4,10	59.8	5.20
計		7660.2	

第5表 漁協別出荷状況

(県漁連資料から)

漁協別	出荷回数	出荷量(千枚)
出 水	8	7021.4
川 内	7	149.6
串 木 野	2	10.5
谷 山	5	255.5
垂 水	5	209.2
牛 根	1	6.5
喜 入	3	7.5
計		7660.2

漁場観測速報（6,7月分）

養殖部

§ 6 月分
I 旬別平均水温

旬別観測値	里		水成川		福山	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	27.87	21.87	22.04	21.39	24.05	21.48
中	23.33	22.16	24.48	23.81	26.45	23.97
下	24.75	20.62	24.65	23.84	26.45	22.75
月平均	23.77	21.50	23.72	23.01	25.65	22.73
前月差	+2.96	+1.92	+3.12	+3.23	+3.12	+2.52
前年差	+1.60	+1.90	+0.40	+1.08	+1.19	-1.23

- 前月に比較して各地区ともに更に2~3℃位高くなっており、また全般的に昨年よりも高めとなつている。
- 里村の6月平均水温は23.77~21.50℃の最高と最低を示し、最高は下旬の24.75℃、最低は下旬の20.62℃であつた。
これは前月の平均よりも最高で約3℃、最低で約2℃高くなつている。
昨年同期よりも最高で1.6℃、最低で1.9℃高くなつている。
- 水成川の月間の平均水温は最高で23.72℃、最低23.01℃で、最高は下旬の24.65℃、最低は上旬の21.39℃であつた。平均では前月よりも約3℃余り高くなつており、昨年同期に比して最高で0.4℃、最低で1℃高めとなつている。
- 福山では最高水温の平均が25.65℃、最低水温の平均は22.73℃で、これは前月よりも最高で3℃、最低で2.5℃高くなつている。
昨年同期に比して、最高で約1℃高く、最低で1℃低くなつている。
- 長崎海洋气象台の7月上旬の西日本海況旬報によると、台湾附近から北上する黒潮の暖流分派は勢力を増し大陸棚上に張り出してきたのが注目される。今後の表面水温はつゆ明けまではゆつくり上昇する見込みで、沿岸附近などでは二重潮の発生するおそれがあるから注意を要するとのことである。

II 漁況

1、里村

総漁獲量は52.120kgで、これを魚種別にみると瀬魚が18.461kgで全体の35%、テングサ14.400kgで全体の28%、アジ6.080kgで12%、その他イカ、キビナゴ、ツノマタなどである。殊に、今月は海藻類でテングサ、ツノマタが水揚げされたのが特徴である。

前月に比較すると、総漁獲量は約4,000kg減となっている。前月はキビナゴ、瀬魚が主体となったが、今月になつては海藻をはじめ、その他の魚種も多種にわたつた。魚種別にはキビナゴが約2,700kg減、瀬魚が約6,000kg減となっている。

去年同期と比較すると、総漁獲量で約12,000kg減獲となつており、キビナゴが4,400kg減獲、瀬魚が約5,000kg増、イカが2,200kgの増となっている他は、カマス、アジ、ツノマタ、テングサなどが水揚げされている。

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	
瀬魚	5	50	1,359	5	30	13,105	4	11	3,997	18,461
アジ	1	1	1,530	2	2	4,550				6,080
イカ	5	25	3,898	1	7	521	1	8	426	4,845
キビナゴ	4	13	2,850	1	3	1,223				4,073
カマス	1	1	675							675
テングサ				1	(200人)	7,200	1	(300人)	7,200	14,400
ツノマタ				1	(300人)	3,586				3,586
計	16	90	10,312	11	42 (500人)	30,185	6	19 (300人)	11,623	52,120

2. 水成川

旬別 魚種	上			中			下			漁獲 量計
	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	有日 漁数	延出漁 船数	漁獲量	
イカ	6	48	548	8	58	129	6	35	420	1,097
イサキ	6	39	620	5	44	450				1,070
アジ	5	32	483	1	8	41	4	27	342	866
サバ	2	14	189	1	5	98				287
瀬魚	1	1	54	2	4	125	1	1	20	199
キビナゴ	3	10	144							144
タイ	1	1	4	1	8	42	3	24	94	140
月日貝	1	1	4							4
その他	10	49	726	8	53	683	8	48	345	1,724
計	35	195	2,772	26	180	1,569	22	135	1,221	5,561

総漁獲量は5,561kgで、魚種別にはイカが1,097kgで全体の約20%、イサキが1,070kgで19%、アジ866kgで15%、その他サバ、瀬魚、キビナゴ、タイなどとなっている。

総漁獲量は前月よりも約2,300kg増獲となり、魚種別にみると、イセエビがみられなくなり、イカ、瀬魚の他は魚種が殆んど入れかわっている。イカが約1,000kgの増、瀬魚は約560kg減となっている。

また、総漁獲量は昨年同期よりも約4,000kg増となり、魚種別にみてもアジ、サバ、イカ、瀬魚ともに昨年同期をはるかに上まわっている。

§ 7 月 分
I 旬別平均水温

旬別	観測値		水 成 川		福 山	
	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低
上	25.72	24.55	24.82	23.85	26.41	24.93
中	26.51	24.73	25.99	25.05	28.59	26.10
下	27.04	25.54	26.34	25.94	30.15	26.78
月平均	26.46	24.98	25.73	24.98	28.50	25.92
前月差	+2.69	+3.48	+2.01	+1.97	+2.85	+3.19
前年差	+1.53	+2.31	-0.37	+1.17	-0.48	-2.62

- 全般的に前月よりも2～3℃高くなっており、前月に続いて上昇を示している。
- 里村では、最高水温の平均が26.46℃、最低水温の平均が24.98℃で7月の最高水温は下旬の27.04℃、最低水温は上旬の24.55℃であった。また、平均水温は前月よりも最高で2.7℃、最低で3.5℃高くなっている。昨年同期と比較すると、最高で1.5℃、最低で2.3℃高い。
- 水成川の7月水温は、最高水温の平均が25.73℃、最低水温の平均が24.98℃で、最高水温は下旬の26.34℃、最低水温は上旬の23.85℃であった。これは前月よりも最高、最低ともに約2℃高くなり上昇を示しているが、その傾度は前月よりも幾分ゆるやかになった。昨年同期の水温と比較すると、最高ではわずかに低くなっており、最低水温の平均は約1℃高くなっている。
- 福山では最高水温の平均が28.50℃、最低水温の平均は25.92℃で、最高は下旬に30.15℃を示し、最低は上旬の24.93℃であった。平均水温は前月よりも最高最低ともに3℃前後高い。また、里村、水成川よりも約2℃高く内湾的性格を表わしている。

II 漁 況

1、里 村

総漁獲量は28,600kgで、魚種別にはキビナゴが7,700kgで全体の27%、瀬魚が5,750kgで20%、イカ6,100kgで21%、その他イサキ、カタクチイワシ、カマスなどとなっている。これは前月よりも総漁獲量で23,000kg減獲となつているが、この原因は前月には約18,000kgの海藻の水揚げがあつたことによる。

昨年同期に比較すると、総漁獲量は昨年よりも12,000kg減となり、魚種別には昨年同期に水揚げがあつたツノマタが今年は6月に採取されて7月には全く採取されていない。その他キビナゴ、瀬魚についても17,000～18,000kg減獲となつている。しかし、イカは6,000kg増獲である。

旬 別 魚 種	上			中			下			漁 獲 量 計	
	有日	漁数	延出漁船数	漁獲量	有日	漁数	延出漁船数	漁獲量	有日		漁数
キビナゴ		3	8	1,597	5	31	5,039	3	11	1,109	7,745
イカ		3	32	2,852	5	23	1,837	3	20	1,439	6,128
瀬魚		2	19	626	5	22	2,556	4	37	2,572	5,754
イサキ								1	5	5,316	5,316
カタクチ イワシ					2	2	2,250	1	1	570	2,820
カマス								2	2	901	901
計		8	59	5,075	17	78	11,682	14	76	11,907	28,664

2、水 成 川

旬 別 魚 種	上			中			下			漁 獲 量 計	
	有日	漁数	延出漁船数	漁獲量	有日	漁数	延出漁船数	漁獲量	有日		漁数
アジ・ サバ		1	8	1,700	7	51	983	6	38	1,186	3,869
瀬魚		3	9	220	8	28	963	2	2	44	1,227
イカ		1	8	85	5	32	383	1	8	54	522
ムロアジ								2	16	206	206
ハガツオ								2	20	169	169
小ダイ		1	7	37	1	11	26	1	3	9	72
その他		1	8	60	9	61	627	6	30	297	984
計		7	40	2,102	30	183	2,987	20	117	1,965	7,049

総漁獲量は7000kgで、魚種別にはアジ、サバが3,800kgで全体の55%、鰯魚が1,200kgで17%、その他イカ、ムロアジ、ハガツオ、小ダイなどとなっている。総漁獲量は前月よりも約500kgとわずかに増獲となっている。

また、昨年同期に比べると約2,600kg増獲となっており、魚種別には、アサヒガニが水揚げされなかつたこと、ハガツオが昨年の $\frac{1}{2}$ に減つたこと、アジ、サバが昨年の約4倍水揚げされたことなどの変動があった。

7月の漁海況概要

漁業部

海況

6月下旬より本格的な梅雨期に入り沿岸水系の張り出しは強くなつた。7月上旬の表面水温は、大隅東部で24~26℃、種子、屋久近海は26℃台、黒潮流域は27℃台である。

各海域とも平年並になつており、又6月に比べ1℃前後の上昇になっている。黒潮流域は種子島東部に依然として沿岸状態がつかっているが、屋久島南部、都井岬は6月よりは若干離岸しているようである。

漁況

○ 旋網

薩南海域では上、中旬馬毛島から竹島寄りに集中して、小サバ主体(22~27cmの範囲、モード25~26cm)で、このほか小アジ、小ムロ、ウルメなど。中旬なかばから屋久島宮ノ浦沖に移動し小アジ主体(80%)に変わった。しかし下旬は台風、月夜と悪条件になつたことから漁獲量は昨年7月に比べ約 $\frac{1}{2}$ に減少した。このような現象は北薩方面にもあつて全般に漁況は悪かつた。

北薩海域は、主に甌島西部でアジ仔の単一群を漁獲した船もあつた。阿久根~長島沿岸はカタクチ、ウルメが主体、又アジ仔、サバ仔各々15%程度みられた。志布志方面の小山田湾は豆アジ主体、外に小サバ、マイワシ若干(14cm前後)。草垣島方面に若干出漁し赤ムロ、野間岬沖豆アジ、豆サバ主体。

○ コツォ一本釣

全般的に漁場は七島全域に分散状態で1隻4~6屯の漁獲。一時的には上、下旬に甌島西方~宇治群島で好漁した船もあつたが、又中旬に宇治、草垣で10屯内外の好漁もみられた。鳥島近海ではかなりの群をみた船もあつたがエツキ不良だつたとのこと。大型船もぼつぼつ入港するようになった。

今年のピンチヨウ漁は不漁型で例年より終漁を早めた。(若干の好漁船はあつたが)

○ その他

鹿児島湾内で八田網によつてわずかのカタクチ(6~8枚)漁をみる。

野間岬近海で曳縄によるメチカ漁があり約50余隻で20吨位(1尾300g主体)漁況は並漁。

業種別・漁港別水揚状況(42年7月分)

業種	漁港	入港 隻数	総漁獲 (噸)	アジ	サバ	ムロ	ウルメ	カタ クチ	マイ ワシ	ムロ	他	昨年同期		
												隻	噸	
近海	阿久根	大	11	103.0	59.6	15.1	19.1	9.0				0.2	9	141.3
		中	62	272.7	163.3	42.8		14.3	37.8	7.2		7.3	96	358.3
		小	140	195.6	43.6	18.4		38.7	82.3	8.0		4.6	157	224.7
	旋網	串木野	33	222.6	154.9	55.7	1.8	0		0.1		10.1	62	301.2
		枕崎	55	792.3	451.7	268.3	53.1	18.5	0			0.7	91	1505.7
		内ノ浦	小	32	45.6	27.1	8.5	0.1	9.1	0	0.3		0.5	
カツオ 一本釣	枕崎	大	25	720.8									9	1304.4
		小	99	742.7									163	78.2
	山川	大	6	199.5									4	1521.0
		小	99	662.7									189	
棒受網	内ノ浦	18	5.9	3.7	1.6		0.5		0		0.1			34.9
	阿久根	105	48.4	9.2	9.6		16.5	6.3	4.3		2.5	96	279.2	
釣サバ	阿久根	8	8.6	0	6.9	1.7					0	91		
流し網	阿久根	325	49.4					0.3		キビナ	49.1			
八田網	枕崎	12	43.8	3.7	30.5	9.3					0.3	54	105.4	
	山川	1	0.2							メチカ	0.2	17	31.4	
定置網	山川	15	17.3							メチカ	17.3			
	内ノ浦	414	15.9	5.2	2.6	0.1	0.6				7.4			

(昭和42年8月10日)

1. 今年の漁海況状況

(1) 海況

鹿児島湾口附近のバショウカジキの漁況を海況的にみれば、例年初漁期の7、8月湾口附近に外洋水の影響がみられる年に好漁となることが多い。今年は屋久島一湊沿岸域の表面水温は4月上旬以降8月上旬現在まで例年より高目を経過している。又湾口附近で8月上旬の表面水温が27℃台となり表層、30m層間の水温差は3℃(好漁年の38年は1℃、41年は9℃)で湾口附近における沿岸水の張出しは顕著でない。湾口附近における表層10m層間は殆んど同一水帯におかれ8月上旬現在までの水温変化の傾向は、大隅海峡中央部の水温変化と似た状態を示し、湾口附近における外洋水の影響は顕著で海況的にはかなり好条件といえる。(第2図)

(2) 沿岸域の漁況

湾口附近のバショウカジキ漁況は、春期における沿岸域でのマアジ、サバ等餌料魚の多い年に好漁となることが多い。今年は湾内においてはマアジ、カタクチ等昨年より来游の増加した魚種もみられたが、例年に比べるとまだ少なく、水準としては40年(不漁年)並みであつた。この他沿岸沖合域の旋網の不漁、湾外西部の定置網の不漁等バショウカジキの索餌かい游であることを前提にすればあまり好条件とは言えないが8月現在沿岸域のマアジ、サバ等はかなり上向きの傾向がみられつつあるので必ずしも悪い条件ではない。

(3) 近海、沖合域の延縄によるバショウカジキ漁況

今年の初夏における台湾近海への出漁船は例年より少なく、従つてバショウカジキの漁獲量も昨年より少なかつた。しかし釣獲率は昨年をやゝ上廻っている。

近海域におけるバショウカジキの有漁船は昨年より多いが1隻5~6尾の船が多くなつており、沖合域における今年のバショウカジキ群は広く各域に分布かい游しているが濃密な群は少ないようで全体の来游量としては必ずしも多くはないと推定される。

(4) 体重組成

湾口附近で漁獲されるバショウカジキの体重は15~40kgに及んでいるが漁期中(7~10月)の体重組成は年によりかなり変動がみられる。38年(好漁年)には体重25~30kg程度の割合揃つた群が多かつたが、不漁年は魚体が揃ひで小型の魚体が漁獲されている。今年の魚体(沖合域)は38年の魚体より小さく平均23kg前後の魚体ではあるが、昨年より若干大きく、又割合魚体も揃つている。従つて魚体の面からは必ずしも好漁年型とは言えないが、昨年よりも好条件と言えそうである。

2. 今年の予報

- (1) 湾口附近への外洋水の影響は顕著で、海況条件としては良好であり、従つて漁期は例年並みに経過しよう。
- (2) 沿岸域のマアジ、サバ等餌料魚の来游状況や近海域におけるバショウカジキの来游状況からみて、今年の漁況は38年のような好漁年ではないが、昨年をかなり上廻る漁獲となるう。
- (3) 昨年湾内部では湾口域に比べ不振であつたが現在の海況の状況からみて、今年は湾内部にも昨年をかなり上廻るかい游がみられよう。
- (4) 西薩海域のバショウカジキ樽流し、或いは流網漁業の漁況も海況的には昨年より好条件となつているのでこの方面も昨年をかなり上廻る漁獲が期待されそうである。

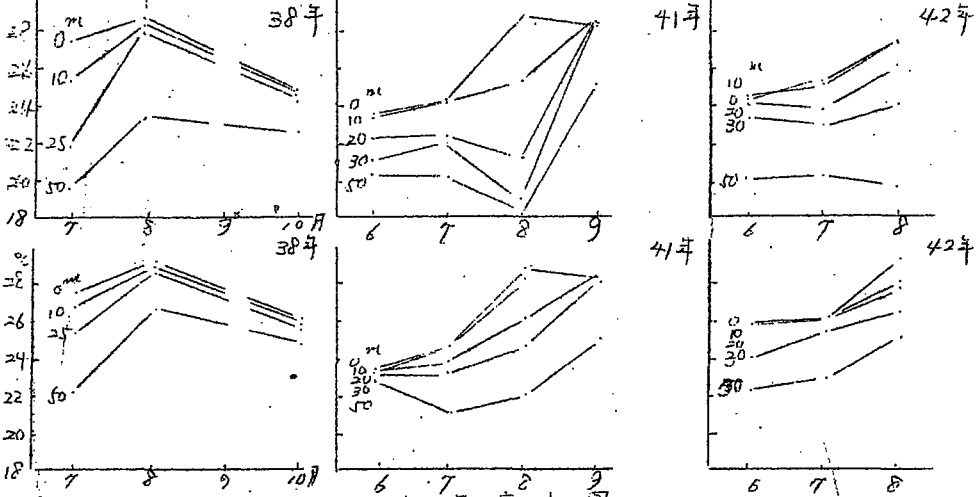
走置マサシ
他
500 1,000



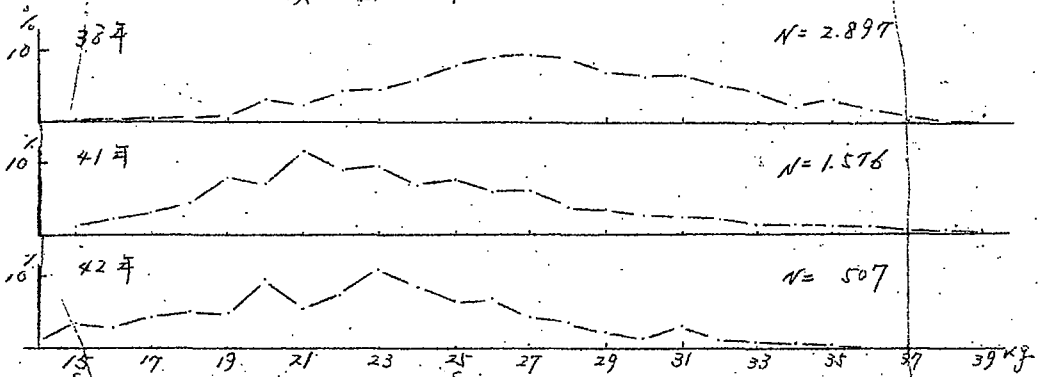
次1図 ハシロコ漁獲量及ハシロコ定置ハシロコ漁獲量の至年変化

鹿児島湾口附近

大崎海峡中央部



次2図 水温変化図



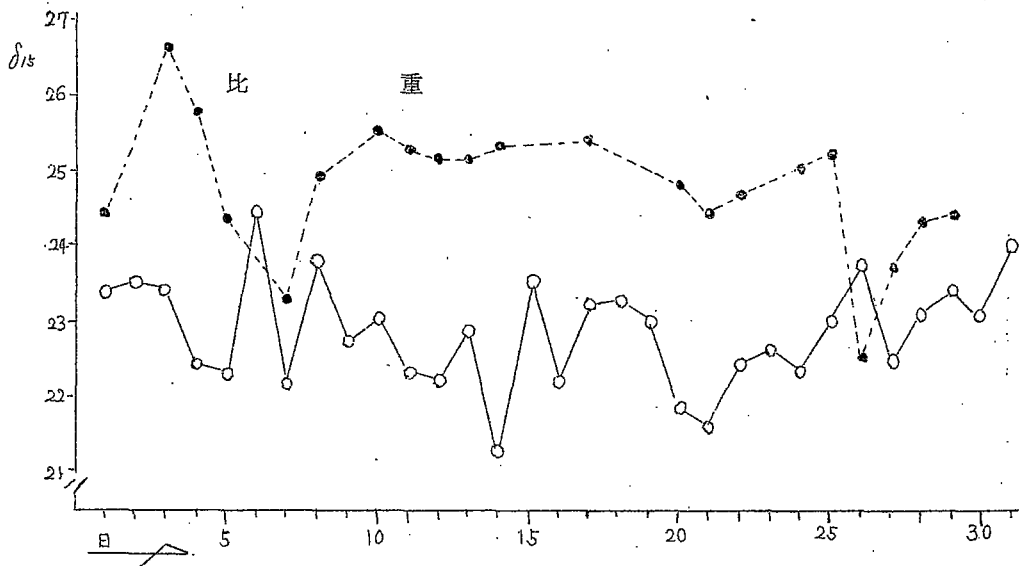
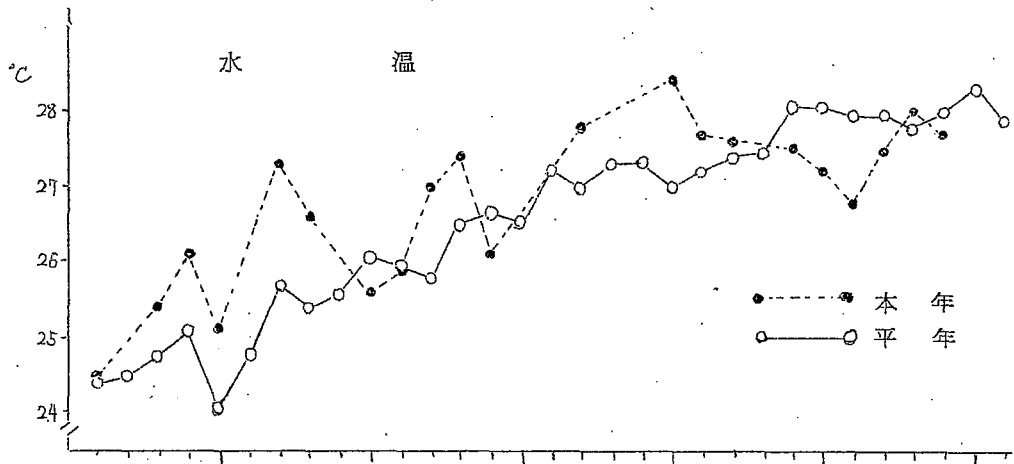
次3図 ハシロコカシキ 体重組成

定 置 観 測 (7 月 分)

養 殖 部

○ 旬別平均水温・比重 (満潮時・表面)

旬	水 温 °C				比 重 δ_{15}			
	本 年	前旬差	前年同期差	平年差	本 年	前旬差	前年同期差	平年差
上	25.80	+1.69	+1.85	+0.66	24.97	-2.04	+0.55	+1.91
中	27.10	+1.30	+0.58	+0.36	25.17	+0.20	+4.71	+2.60
下	27.50	+0.40	-1.16	-0.33	24.27	-0.90	+1.18	+1.39
月平均	26.81	+2.17	+0.43	+0.23	24.76	-2.20	+2.19	+1.92



○ 水 温

24.5～28.5℃と変動し上中旬は平年よりやゝ高めであつたが、下旬は台風10号の接近により低めを示した。月平均水温は26.8℃で、前月より2.2℃昇温し、前年同期に比べ0.4℃、平年値より0.2℃高めとなつた。

○ 比 重

22.5～26.6と変動し、高かんが続いている。上旬と下旬に降雨のため変動が大きく、中旬は25内外と安定していた。月平均比重は24.7で、前月より2.2低くなり、前年同期より2.2高め、平年値より1.9高めとなつた。

奄 美 短 信

「うしお」原稿提出15日締切りに努力せねばと思いながら、夏ぼけでなかなか頭の整理がつかず、おくれて申し訳ありません。このごろ原稿当番で何時も問題をかもしている次第。なんと言つても8月15日ともなれば戦中派の我々にとつては、忘れることの出来ない日に思われます。世をあげてテレビ、ラジオ、又公報或いは町報と終戦記念日をして、大戦に参加し亡くなられた尊い御霊に対し、1分間の黙禱をさしげ永遠の平和を祈るよう、あらゆる通報伝達がなされたにもかゝらず、知らぬかのように町のざわめきは消えなかつた感じすらする。今世の平和な時代になつたものと感謝し、一人町役場のサイレンに合せ黙禱をした。あれから早や22年の歳月が過ぎ、戦争により青春を無駄にしたとも思い、又貴重な体験をなし生きながらえたとも思い唯々感謝して今日頑張っているが、永遠の平和を祈りたいものだ。「うしお」原稿の主旨と余りかけはなれた戦争の記事で誠に申し訳けないが、今度新知事の前進のための五則なる額を事務室中央に揚げ朝夕見上げていると昔の戦中の思いが浮び、上は〇〇方面軍司令官一師団長一下は内務班の上等兵殿の戦規、内規等数々の額縁とにらめっこし、朝な夕なに暗記させられた思いとすると、新知事の前進のための五則の五ヶ条の厳守位勇気を持つて前進へ前進へと一同猛暑の中で努力がなされているようで気強く思っている次第です。余り堅い事でおゆるしころ。

さて、奄美大島は30℃以上の猛暑の連続である。今度の台風15号大島周辺においては熱低で過ぎたが、これがなんと避難港であるべき古仁屋漁港が南東南西の強風波により大小の船舶の大騒動、沈船が出るやら錨綱が切れるやら全く以つて名港？の感があり、町民上げて拡張工事請願の気持がわからぬでもない。然し

なんといつでも常夏の国ハワイに優るとも劣らぬとかのリーフの島と論島、日本中にある鐘乳洞を一度で見られる優秀さを持つ沖永良部島と、このところ観光ブームに乗り、あらゆる島々に〇〇大学探険隊、〇〇調査班等、胸章や腕章をつけた青年男女で唯々奇風？に見られる探険家達で鹿兒島からの上下船便は誠に賑やかなものである。奄美大島にある我々水産を始めあらゆる研究者達は何をしているのかと自分達の仕事の反省をもとめられる思いがするが、それとて我々の参考になるような立派な資料に巡りあえないのがかえって幸せかも知れない。たんなるリクレーションの場としか感じないような鈍感な人間となりつゝあるのか。一方我々は眼の保養をかねて？行き交う若い之等の男女を横目で見ながら猛暑の中で将来の大型真珠の島にしようと汗とも塩水ともつかぬびしょ濡れの身で努力しているところ台風15号前の涼しさが災いし、軽い風邪の流行にかゝりながら皆大奮闘し稚貝の養育に懸命である。然しある漁村誌にミニスカートとハイネットの大流行とかで真珠の売行きが悪化したとか、ばかな文面も散見され、なんとなく気抜けがするような感もあるが、又气象台等の発表によると今年の秋は駆足で来るとか気温、水温の急降が気がかりだけにその設備の無い我が研究室では大変な事と気が気でないが、皆大量生産にあずかりたいと願ひ頑張っている次第です。大島を卒業された先輩はなつかしく思い出されるかと思ひます。8月18日(旧13日)から盃蘭盆入り、それから旧8月15日と夜祭8月おどりと、早い人は暑さ吹きとばす意味である太鼓とおどりをやつておられるようで夜おそく風と共に聞こえてくるあの哀調の音と共に大島の秋も近いようです。

(M , S)

業 務 概 況

§ 本 場

漁 業 部

- 7月17日～8月7日 ヒラクサ調査(種子島周辺)「かもめ」
(担当者 徳留)
- 7月20日～31日 沿岸海底調査(大隅東部)照南丸
(担当者 岩倉)
- 8月3日～12日 8月漁海況観測(照南丸)
(担当者 肥後)

- 8月17日～31日 沿岸海底調査（大隅東部） 照南丸
（担当者 岩倉）
- “ “ “ “ パシヨウカジキ漁場開発調査（流し網）種子島東部
かもめ（担当者 川上）

養 殖 部

- ノリ関係
 - * 糸状体培養：トロ箱2箱に黄斑病発生。淡水処理した。
 - * ノリ培養実験準備：室内培養による育種実験の準備をした。
 - * 資料整理：41年度試験の試料の検鏡測定と、とりまとめを行なった。
（担当者 新村，椎原）
- クロチヨウガイ室内採苗試験
8月1日以降、垂水市海潟にてクロチヨウガイの室内採苗試験中。
（担当者 瀬戸口）
- トコブシ産卵誘発試験
8月7日：西ノ表市住吉から試験船「かもめ」にて採卵用親貝を輸送。
その後竜ヶ水地先に養成しながら適宜実験室で誘発試験中。
（担当者 山口）
- 真珠貝寄生虫調査
鹿兒島湾内の各地真珠漁場における特にポリキータの被害状況調査を継続。
（担当者 藤田）
- フジツボ調査
8月10日：西桜島に垂下してある試験貝にてフジツボの被害状況を調査。
（担当者 前田）

製 造 部

- 味付フカメ製造試験
業界への指導資料とするため先進地製法に準じ試作した。
（担当者 藤田外）
- 蒲鉾保蔵試験（継続）
フカを主原料とした蒲鉾製品に対するK67Aの保鮮効果を更に播漬中の添加時期につき検討し、その効果を比較した。
（担当者 是枝外）
- フカ原料学調査（継続）
（担当者 是枝外）

調 査 部

- 水質調査
 - * 8月8日～10日：出水製紙~~工~~廃液による河川水、海水及び底質等の汚染状況調査。（担当者 上田，弟子丸，九万田）

- * 8月22日～24日：肝付川水系、安楽川、田原川、菱田川、持留川及び志布志湾沿岸の水質、底質調査（澱粉製造前の状況調査）
（担当者 島山，弟子丸，上田，荒牧）

○ 蓄養試験関係等

- * 8月月間：前月に引続きクルマエビの箱生簀、棚生簀による養成試験。
（担当者 九万田，荒牧，上田，弟子丸）
- * 8月16日：オリエンタル飼料KKと海潟森元氏との人工飼料によるハマチ養成共同試験魚についての魚体測定調査。
（担当者 九万田，弟子丸）
- * 8月11日：黒の浜、和田ハマチ養成魚の寄生虫駆除について現地指導。
（担当者 九万田）
- * 月間：前月に引続き釣餌料用タエビの飼育試験。
（担当者 荒牧）

§ 大島分場

庶務係

- 8月2日：古仁屋漁港管理委員会開催。
別府水産課長、外1名出席。支庁竹元技術補佐、外1名。
- 8月7日：奄美群島自然公園調査団の田村剛博士、瀬戸内町長外6名来所。
- 8月14日：東大助教授鴻巣博士、徳之島経由来所。

漁業係

- 8月11日 底待網模型網投入。
- 8月16日 大島海峡海洋観測。

養殖係

- 餌料生物培養試験
- マベ人工授精試験
7月28日、8月4日、10日、13日、16日に天然採集母貝、人工採苗母貝を用いて実施（8月13日分は自然授精）7月28日の発生幼生は厚塩に喰害され、現在8月4日、10日、13日、16日発生幼生を15、17ℓガラス水槽200ℓポリタンクで飼育中。

製造係

- 加工場貸付（月間） 茂野忠昭（平祐丸）
- 41年度事業報告整理